

令和3年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
「介護支援専門員の資質向上に資する研修等の
あり方に関する調査研究事業」
【報告書 概要版】

株式会社日本総合研究所
2022年3月

事業の背景・目的

- 本事業の背景・目的は以下のとおり。

1 背景

介護及び医療や福祉の実践の方法や技術、介護保険をはじめとする社会保障制度やそれを取り巻くさまざまな環境は、常に変化しており、介護支援専門員が修得すべき事項や期待される役割も同様に変化している。加えて、独居の要介護高齢者、認知症や精神疾患を有する要介護高齢者、医療処置を要する要介護高齢者、支援を必要とする家族等、介護支援専門員が実際に現場で対応している利用者像も多様化し、複雑化している。

このような変化等の状況を鑑みると、介護支援専門員の養成研修のあり方等は、制度改正や介護報酬改定等を踏まえ、介護支援専門員に求められる能力や役割の変化の観点から定期的に見直しを行う必要がある。

2 目的

上記の背景を踏まえ、本事業においては、**介護支援専門員に求められる能力や役割の変遷及び昨今の制度改正の状況等を考慮しながら、現行の介護支援専門員の法定研修のカリキュラム、ガイドライン等の見直し案の作成を行うことを目的**とした。

併せて、現行の研修内容の実施状況について、国・都道府県・市町村が一体となって、課題の共有や好事例の横展開を行い、研修の質を全国的に底上げする観点から、全国介護支援専門員研修向上会議を実施した。

事業の方法・進め方（1 / 2）

- 本事業は検討委員会とワーキンググループを設置し、各種検討を行った。委員構成は以下のとおり。
- 検討委員会は、ケアマネジメント関連の知見・経験を有する学識経験者、関係職能団体、行政関係者等で構成し、本事業全体に係る方針検討、ワーキンググループの具体的な検討内容及び検討結果に対する助言等を役割とした。事業期間中に計3回開催した。
- ワーキンググループは、ケアマネジメントの実務及び法定研修の実施に精通したメンバーで構成し、カリキュラム等の見直しに関する具体的な検討を実施した。事業期間中に計6回開催した。

検討委員会委員委員（五十音順・敬称略）

氏名	所属先・役職名
石山麗子	国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 教授
今村文典	公益社団法人日本介護福祉士会 副会長
遠藤征也	一般財団法人長寿社会開発センター 事務局長
大竹智洋	東京都福祉保健局 高齢社会対策部 介護保険課長
川越正平	あおぞら診療所 院長
七種秀樹	一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長
中澤伸	公益社団法人日本社会福祉士会 地域包括ケア推進委員会 委員
中村春基	一般社団法人日本作業療法士協会 会長
福井小紀子	東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科 教授
堀川尚子	公益社団法人日本看護協会 医療政策部 在宅看護課
○三浦久幸	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部長

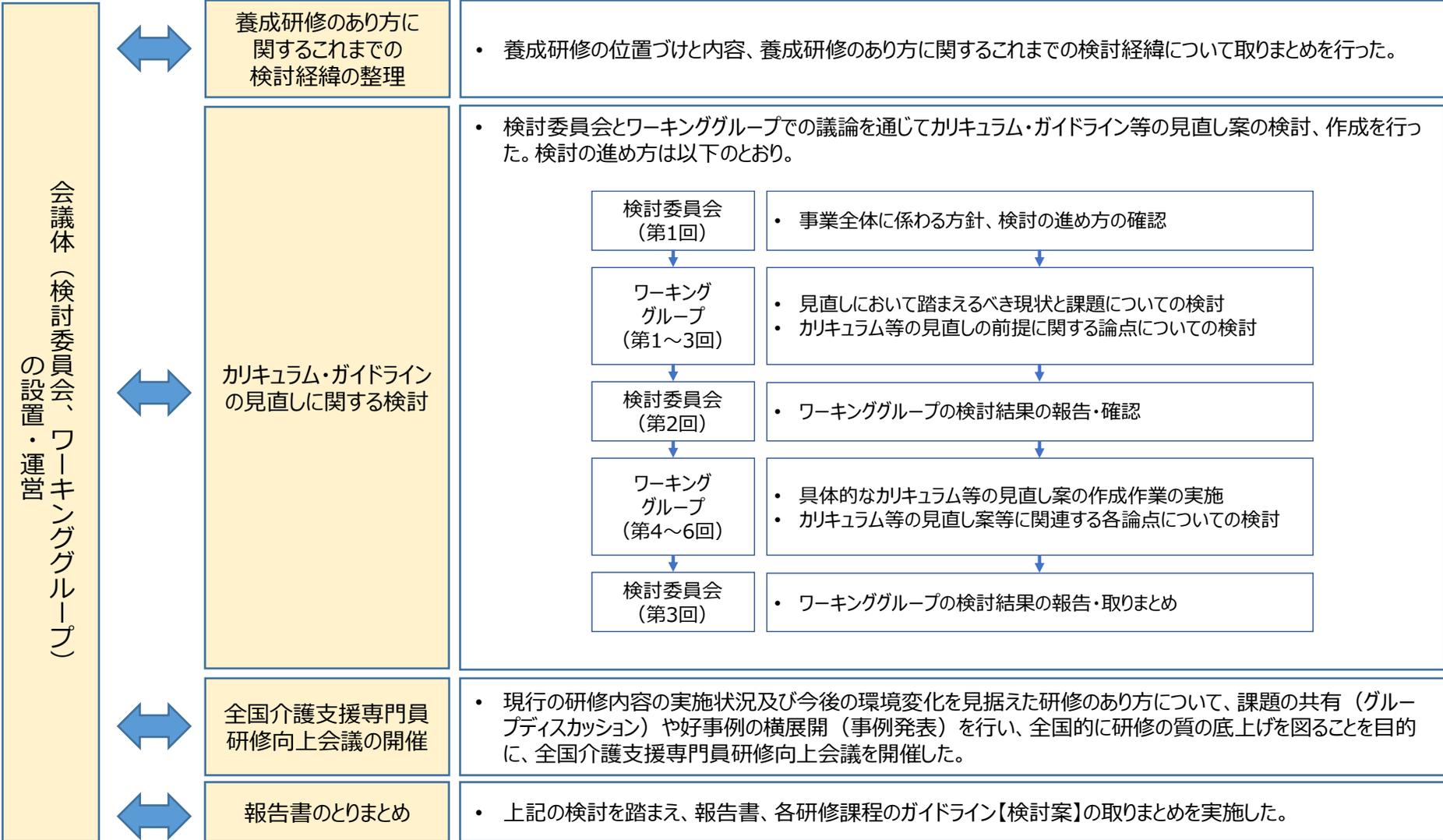
ワーキンググループ委員（五十音順・敬称略）

氏名	所属先・役職名
石山麗子	国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 教授
遠藤征也	一般財団法人長寿社会開発センター 事務局長
岡島潤子	株式会社やさしい手 経営企画部顧問 兼 居宅介護支援事業 スーパーバイザー
小鷹英由紀	小田原市 福祉健康部 高齢介護課 地域包括支援係 副課長
落久保裕之	一般社団法人広島県医師会 常任理事 一般社団法人広島県介護支援専門員協会 会長
金丸絵里	武蔵野市 健康福祉部 高齢者支援課 地域包括支援センター
○川越正平	あおぞら診療所 院長
齊木大	株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー
時枝琢二	医療法人積善会大分県認知症疾患医療センター 千嶋病院 特定非営利活動法人大分県介護支援専門員協会
中澤伸	社会福祉法人川崎聖風福祉会 事業推進部長
能本守康	一般社団法人日本介護支援専門員協会 常任理事
福嶋史皓	長野県 健康福祉部 介護支援課 介護人材係
村田雄二	特定非営利活動法人静岡県介護支援専門員協会 会長

※座長：○、所属・役職名は委員就任時点のもの

事業の方法・進め方（2 / 2）

- 本事業は以下の実施内容、進め方で検討を行った。



カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：共通事項

- 本事業の成果として介護支援専門員の法定研修（実務研修、専門研修、主任研修、主任更新研修）のカリキュラム、ガイドライン【検討案】の取りまとめを行った。
 - 全研修課程に共通するカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。
- **幅広い視点で生活全般を捉え、生活の将来予測や各職種の視点や知見に基づいた根拠のある支援の組み立てを行うことが介護支援専門員に求められていることを踏まえ、そのような社会的な要請に対応できる知識や技術を修得できるように科目の構成・内容を見直す**
 - 根拠のある支援の組み立ての基盤となる視点（適切なケアマネジメント手法や科学的介護（LIFE）等）を学ぶ内容を各科目類型に追加
 - 高齢者の生活課題の要因等を踏まえた支援の実施に必要な知識や実践上の留意点を継続的に学ぶことができるように、適切なケアマネジメント手法の考え方を実務研修、専門研修Ⅰ・Ⅱ、主任研修・主任更新研修に横ぐしをさして学ぶ科目類型を追加
 - 認知症や終末期などで意思決定支援を必要とする利用者・世帯がさらに増えるとともに、根拠のある支援の組み立てに向けて学ぶべき知識や技術の変化が今後も進むと考えられる。そのような変化の中では、職業倫理の重要性は一層高まるが見込まれる。そのため、職業倫理についての視点を強化
 - **介護保険以外の領域も含めて、制度・政策、社会資源等についての近年の動向（地域共生社会、認知症施策大綱、ヤングケアラー、仕事と介護の両立、科学的介護、身寄りがない人への対応、意思決定支援等）を定期的に確認し、日々のケアマネジメントの実践のあり方を見直すための内容の充実・更新を行う**
 - 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映
 - 専門研修Ⅱ、主任更新研修にケアマネジメントの実践の振り返りを行うとともに、ケアマネジメントプロセス等に関する最新の知見を確認し、実践のあり方の見直しを行うための科目を新設
 - **法定研修修了後の継続研修（法定外研修、OJT等）で実践力を養成することを前提に、カリキュラムの内容を幅広い知識の獲得に重きを置いた時間配分（＝講義中心）に見直す**
 - 限られた法定研修の時間数を考慮し、法定研修の内容は継続研修への接続を意識した知識の獲得に重きをおいた内容とする
 - 継続研修での実践力の養成の基盤となる幅広い知識の獲得が行われるように、主に実務研修課程について、「必要な知識を記憶しており、具体的な用語や事例等を述べることができるレベル」又は「必要な理念や考え方について理解しており、その理念や考え方について自分の言葉で具体的に説明できるレベル」を修得目標として設定

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：実務研修

- 実務研修のカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

<見直しのポイント：実務研修>

- 「人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理」の時間数増
- 「居宅サービス計画等の作成」、「サービス担当者会議の意義及び進め方」、「モニタリング及び評価」の時間数減
- 「地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源」の時間数増
- ケアマネジメントの展開に関する科目の事例類型の見直し
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント	講義	3	時間増	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント	講義	3
自立支援のためのケアマネジメントの基本	講義・演習	6		自立支援のためのケアマネジメントの基本	講義・演習	6
相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎	講義・演習	4	時間減	相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎	講義・演習	4
人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理	講義	2		人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理	講義	3
利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意	講義・演習	2	時間減	利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意	講義・演習	2
ケアマネジメントのプロセス	講義	2		ケアマネジメントのプロセス	講義	2
受付及び相談並びに契約	講義・演習	1	時間減	受付及び相談並びに契約	講義・演習	1
アセスメント及びニーズ把握の方法	講義・演習	6		アセスメント及びニーズ把握の方法	講義・演習	6
居宅サービス計画等の作成	講義・演習	4	時間減	居宅サービス計画等の作成	講義・演習	3
サービス担当者会議の意義及び進め方	講義・演習	4		サービス担当者会議の意義及び進め方	講義・演習	3
モニタリング及び評価	講義・演習	4	時間増	モニタリング及び評価	講義・演習	3
介護支援専門員に求められるマネジメント（チームマネジメント）	講義・演習	2		介護支援専門員に求められるマネジメント（チームマネジメント）	講義・演習	2
地域包括ケアシステム及び社会資源	講義	3	時間増	地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源	講義	4
ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の意義	講義	3		生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の意義	講義	3
ケアマネジメントに係る法令等の理解	講義	2	適切なケアマネジメント手法の類型に変更	ケアマネジメントに係る法令等の理解	講義	2
実習オリエンテーション	講義	1		実習オリエンテーション	講義	1
ケアマネジメントの基礎技術に関する実習	実習	-	新設	ケアマネジメントの基礎技術に関する実習	実習	-
実習振り返り	講義・演習	3		実習振り返り	講義・演習	3
ケアマネジメントの展開	講義・演習	3	新設	ケアマネジメントの展開	講義・演習	3
基礎理解	講義・演習	5		生活の継続を支える基本的なケアマネジメント	講義・演習	4
脳血管疾患に関する事例	講義・演習	5	新設	脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
認知症に関する事例	講義・演習	5		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
筋骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例	講義・演習	5	新設	大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
内臓の機能不全に関する事例	講義・演習	5		高齢者に多い慢性疾患の留意点の理解	講義	2
看取りに関する事例	講義・演習	5	新設	看取りのケアマネジメントの理解	講義	2
				心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
			新設	誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	3
				他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	3
アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習	講義・演習	5		アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習	講義・演習	5
研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2		研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2

※【検討案】は本事業の成果をとりまとめものであり、正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：専門研修 I

● 専門研修 I のカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

- <見直しのポイント：専門研修 I >**
- 「ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定」の時間数減
 - 「ケアマネジメントの実践における倫理」の時間数増
 - 「個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習」の時間数増
 - ケアマネジメントの演習に関する科目の事例類型の見直し
 - 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間	
ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	講義・演習	12	時間減	ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	講義・演習	8	
介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	講義	3		介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	講義	3	
対人個別援助技術及び地域援助技術	講義	3	科目名変更	ソーシャルケースワーク及びコミュニティソーシャルワーク	講義	3	
ケアマネジメントの実践における倫理	講義	2	時間増	ケアマネジメントの実践における倫理	講義	4	
ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実践	講義	4	科目名変更	生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践	講義	4	
○ケアマネジメントの演習	講義・演習	4	適切な ケアマネジメント 手法の類型に 変更 見直し	○ケアマネジメントの演習	講義・演習	4	
リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	講義・演習	4		生活の継続を支える基本的なケアマネジメント	講義・演習	4	
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	講義・演習	4		脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4	
認知症に関する事例	講義・演習	4		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	4	
入退院時等における医療との連携に関する事例	講義・演習	4		大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	4	
家族への支援の視点が必要な事例	講義・演習	4		心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4	
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	講義・演習	4		誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	4	
状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例	講義・演習	4		他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	4	
個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習	講義	2		時間増	個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習	講義	4
研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2			研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義・演習	2

※【検討案】は本事業の成果をとりまとめものであり、正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：専門研修Ⅱ

- 専門研修Ⅱのカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

<見直しのポイント：専門研修Ⅱ>

- 「ケアマネジメントの実践における倫理」の新設
- ケアマネジメントにおける実践事例の研修及び発表に関する科目の事例類型の見直し
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開	講義	4	新設 ↓ 適切な ケアマネジメント 手法の類型に 変更 ↓ 見直し	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開	講義	4
				ケアマネジメントの実践における倫理	講義	2
○ケアマネジメントにおける実践事例の研修及び発表 リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	講義・演習	4		○ケアマネジメントにおける実践事例の研修及び発表 生活の継続を支える基本的なケアマネジメント	講義・演習	3
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	講義・演習	4		脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
認知症に関する事例	講義・演習	4		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
入退院時等における医療との連携に関する事例	講義・演習	4		大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
家族への支援の視点が必要な事例	講義・演習	4		心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	4
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	講義・演習	4		誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	3
状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例	講義・演習	4		他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	4

※【検討案】は本事業の成果をとりまとめものであり、正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：主任介護支援専門員研修

- 主任介護支援専門員研修のカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

<見直しのポイント：主任介護支援専門員研修>

- 「終末期ケア（EOL（エンドオブライフ）ケア）を含めた生活の継続を支える基本的なマネジメント及び疾患別マネジメントの理解」の新設（現行の「ターミナルケア」は本科目に統合）
- 制度・政策、社会資源等についての近年の動向に関する内容を反映

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
主任介護支援専門員の役割と視点	講義	5		主任介護支援専門員の役割と視点	講義	5
ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援	講義	2		ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援	講義	2
ターミナルケア	講義	3	削除			
			新設	終末期ケア（EOL(エンドオブライフ)ケア）を含めた生活の継続を支える基本的なケアマネジメント及び疾患別ケアマネジメントの理解	講義	3
人材育成及び業務管理	講義	3		人材育成及び業務管理	講義	3
運営管理におけるリスクマネジメント	講義	3		運営管理におけるリスクマネジメント	講義	3
地域援助技術	講義・演習	6	科目名変更	コミュニティソーシャルワーク	講義・演習	6
ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実現	講義・演習	6		ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実現	講義・演習	6
対人援助者監督指導	講義・演習	18	科目名変更	スーパービジョン	講義・演習	18
個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開	講義・演習	24		個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開	講義・演習	24

※【検討案】は本事業の成果をとりまとめものであり、正式なカリキュラム、ガイドラインとして確定したものではありません。

カリキュラム【検討案】の見直しのポイント：主任介護支援専門員更新研修

- 主任介護支援専門員更新研修のカリキュラム【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

<見直しのポイント：主任介護支援専門員更新研修>

- 「ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援」の新設
- 主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践に関する科目の事例類型の見直し

科目（現行）	手法	時間		科目（見直し案）	手法	時間
介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向	講義	4	新設 ↓ 適切な ケアマネジメント 手法の類型に 変更 見直し ↓	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向	講義	4
				ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援	講義	2
○主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践 リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	講義・演習	6		○主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践 生活の継続を支える基本的なマネジメント	講義・演習	4
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	講義・演習	6		脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	6
認知症に関する事例	講義・演習	6		認知症のある方のケアマネジメント	講義・演習	6
入退院時等における医療との連携に関する事例	講義・演習	6		大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義・演習	6
家族への支援の視点が必要な事例	講義・演習	6		心疾患のある方のケアマネジメント	講義・演習	6
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	講義・演習	6		誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント	講義・演習	6
状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例	講義・演習	6		他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義・演習	6

ガイドライン【検討案】の見直しのポイント

- ガイドライン【検討案】の見直しのポイントは以下のとおり。

<見直しのポイント：ガイドライン>

- 「介護支援専門員養成研修における実習受入に関する指針」、「介護支援専門員養成研修における修了評価に関する指針」、「介護支援専門員研修オンライン実施の手引き」の内容の反映
- 「各科目のガイドライン」について以下の見直しを実施
 - ▶ 「関連科目」、「講義・演習の展開例」を割愛
 - ▶ 「内容」「研修展開上の留意点」の記述の大幅な簡素化を行い、1科目あたりのボリュームが2～3頁になるように編集
 - ▶ 「法定外研修への接続」に関する項目を追加

介護支援専門員実務 ガイドライン【検討案】の構成 ※研修課程ごとに構成が異なる部分がある

1. ガイドライン作成の背景

- (1) ケアマネジメントの目的と意義
- (2) 介護支援専門員の養成研修の目的
- (3) 本ガイドラインの位置づけ
- (4) 介護支援専門員の資質向上に係る現状認識
- (5) 今回のカリキュラムの見直しの方向性
- (6) 用語の定義

2. 本ガイドラインの基本的な考え方

- (1) 専門職としての自己研鑽の必要性
- (2) 法定研修の目的
- (3) 法定外研修の位置づけと意義
- (4) 生涯学習を支える環境の整備の必要性
- (5) 本ガイドラインの構成

3. 効果的な養成のための企画・実施・評価の考え方

- (1) 「自ら学び続ける」方法の修得支援
- (2) 学びと実践をつなげる工夫
- (3) 記憶に残しやすくする研修や教材の展開方法
- (4) 学習領域に応じた効果的な教え方
- (5) 改善を意識した研修の推進
- (6) 研修のPDCAサイクル推進に向けた体制

4. 法定研修の対象及び実施上の留意点

- (1) 介護支援専門員研修の対象
- (2) 研修実施上の留意点
- (3) オンライン研修環境の活用上の留意点

5. 修了評価の考え方

- (1) 修了評価における基本的な考え方
- (2) 介護支援専門員養成研修における修了評価の基準と方法
- (3) 研修記録シートの活用方法
- (4) 修了評価を実施するために研修実施機関が取り組むべきこと
- (5) 実務研修課程における具体的な評価方法

6. 実習受入の考え方

- (1) 基本的な考え方
- (2) 都道府県及び研修実施機関における準備と実習の展開方法
- (3) 実習受け入れ事業所に求められる準備と実習の展開方法

7. 各科目の展開方法

- (1) 科目の構成（カリキュラム）
- (2) 適切なケアマネジメント手法について
- (3) 各科目のガイドラインの構成と各項目の見方

8. 各科目のガイドライン